

平成29年11月28日
(2017年)

保護者の皆様

吹田市立山田中学校
校長 溝口 千鶴

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度、3年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学の2教科であることを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

【 国 語 】

《概要》

A・B問題とも平均正答率は大阪府及び全国値を上回っている。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、全国平均を大きく上回っている。

◎国語A（「知識」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全領域において全国値を上回っている。

◎国語B（「知識の活用」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全領域において全国値を上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

・「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」ことは、全国値を上回っている。

書くこと

・「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」ことは、全国値を上回っている。

読むこと

・「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことは、全国値を上回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「文脈に即して漢字を正しく書く」ことは、全国値を上回っている。
- ・「楷書と行書との違いを理解する」ことは、全国値を上回っている。
- ・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことについては、やや課題がある。

《国語科における成果と今後の改善点について》



今回の調査結果から、生徒の日常の学習成果と努力を確認することができる。特に、「言語に関する知識」や「読む」ことに関して、学習の成果が現れている。昨年度、改善が見られた「話すこと・聞くこと」については、グループワークを取り入れた授業を定期的・継続的に行ってきたことで更なる改善は見られるものの、「生活習慣や学習環境等に関する調査」において「話すこと」が課題となっていることから、国語科だけではなく、全ての教科で今後もグループワークを取り入れた授業形態等を継続して進めていく必要がある。また、「相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す」ことに関してはやや課題が見られる。今後、授業の中で単元の感想や自分の考え、根拠を示して書いたり、話したりする機会を増やすことなどで改善を図っていく。

【 数 学 】

《概要》

A・B問題とも平均正答率ほどの領域も全国値を上回っている。特に、「数と式」「図形」「関数」に関しては、全国値を大きく上回っている。

◎数学A（『知識』に関する問題）

「数と式」「図形」「関数」の領域において全国値を大きく上回っている。

◎数学B（『活用』に関する問題）

「数と式」「図形」「関数」の領域において全国値を大きく上回っているが、「資料の活用」については、やや課題が見られた。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

- ・「等式を目的に応じて変形することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。

図形

- ・「錯角の意味を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「円柱の体積を求めることができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「多角形の内角の和の求め方を理解している」ことについては、やや課題がある。

関数

- ・「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。

資料の活用

- ・「与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる」ことについては、全国値を大きく上回っている。
- ・「範囲の意味を理解している」ことについては、やや課題がある。
- ・「与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる」ことについては、やや課題がある。

《数学科における成果と今後の改善点について》



今回の調査結果から、習熟度別指導を含む、少人数指導等の成果がみられ、特に「計算力」に関しては、学習の成果が現れている。しかし、「資料の活用」について、やや課題がある。「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことについては、多くの生徒がつまずきやすい部分ではあり、全国平均と同様に無回答率も高い。今後も少人数指導の特性をいかし、授業の中で、意見を伝える力、発表する力、説明する力の育成に努める。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学校での学習】

- ・「自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる」は昨年度から改善されたものの、全国値を下回っている。
- ・「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている」については、全国値を下回っている。



アクティブラーニングを取り入れた授業を継続して行い、「相手の話を聞き、自分の意見を伝えることができる子ども」の育成を目指す。

- ・「授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている」については、全国値を下回っている。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている」については、全国値を下回っている。



今後、授業のはじめに目標（ねらい・めあて）を提示し、授業の中では自分で考える時間や、話し合う活動の時間を確保するとともに、授業の最後には学習を振り返る活動の実施等をすすめる。

- ・「1日当たりの読書時間で『全くしない』『10分より少ない』」ことについては、全国値を大きく上回っている。



今後、授業内容と関わる本を紹介したり、図書便りを積極的に活用し、読書を行う機会を増やす。

【自学自習】

- ・「家で計画を立てて勉強をしますか」については、全国値を上回っている。
- ・「家で学校の授業の復習をしている」については、全国値を上回っているものの、「家で学校の授業の予習をしている」については、全国値を下回っている。

(山中生のかがやき1)

計画を立てて自ら学習する子ども

【自己肯定感・モチベーション】

- ・「自分には良いところがあると思う」は全国値をやや下回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」については、全国値をやや下回っている。



授業や、HR、道徳等学校生活全般において積極的に生徒の活動を評価し、自尊心を育てる取り組みを進める。また、進路学習においても、中学校の三年間だけではなく、小学校から継続した含めたキャリア教育を進めていく。

- ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか」については、全国値を上回っている。
- ・「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いませんか」については、全国値を上回っている。

(山中生のかがやき1)

世界に羽ばたく子ども

- ・「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがありますか」については、全国値と同様である。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」については、全国値と同様である。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」については、全国値をやや下回っている。

【規範意識】

- ・「学校の規則は守っていますか」については、全国値を上回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか」については、全国値と同様である。
- ・「いじめはどんな理由があっても行けないことだと思いますか」については、全国値を上回っている。

(山中生のかがやき1)

社会に貢献したいと思う子ども